

静岡県森林共生基本計画 2022-2025 施策体系

「森林との共生」による持続可能な社会の実現 = SDGs達成に寄与 ～ 環境・経済・社会が調和した森林づくりにより、多面的機能を持続的に発揮 ～

1 森林資源の循環利用を担う林業・木材産業によるグリーン成長

森林資源の循環利用による「森林との共生」

(1) 林業イノベーションの推進による県産材の安定供給

- ① 林業イノベーション×DXの推進
(プラットフォーム強化、現場実装・DXの促進)
- ② 県産材の効率的な供給・流通体制の確立
(低コスト生産システム定着、供給・流通最適化)
- ③ 収益性の高い主伐・再造林の促進
(低コスト一貫作業システム、林地残材の活用促進)
- ④ 森林認証材の供給拡大
(需要即応型の生産団地づくり、認証材の供給基盤整備(主伐型路網・架線)、認証取得促進)

(2) 林業の人材確保・育成と持続的経営の定着

- ① 森林技術者の確保・育成
(魅力発信、新規就業促進、デジタル人材等育成)
- ② 林業経営体の経営改革
(生産性と安全性の改善、所得と労働環境の向上)

(3) 県産材製品の需要拡大

- ① 県産材の製材・加工体制の強化
(施設整備・機械導入、J A S 等認証取得促進)
- ② 県産材製品の県内利用拡大
(住宅・非住宅の利用促進、設計者の確保)
- ③ 県産材製品の県内外の販路開拓
(異業種との連携等による販路開拓取組の支援、ニーズを捉えた県産材製品の開発促進)

2 森林の公益的機能の維持・増進

森林の適正な整備・保全による「森林との共生」

(1) 森林の適切な管理・整備

- ① 森林DXと経営管理の促進
(森林クラウド構築、デジタル森林情報整備・活用、森林経営計画の作成支援、森林経営管理制度や譲与税による市町の森林管理・整備の支援)
- ② 適切な森林整備の促進
(間伐等森林整備の着実な実施、路網整備)
- ③ 主伐・再造林による適正な更新
(低コスト一貫作業システム、エリートツリー苗木安定供給、先端技術による効果的な獣害対策)

(2) 多様性のある豊かな森林の保全

- ① 森林保全による県土強靱化
(山地災害対策、森の防潮堤づくり、「流域治水」の考え方に基づく森林の整備・保全)
- ② 森林の公益的機能の回復
(森の力再生事業、病虫害対策)
- ③ 適正な保安林の配備と森林の利用
(保安林指定・機能向上、林地開発許可制度、伐採・造林届出制度の適切な運用)
- ④ 自然環境の保全
(富士山・南アルプス等自然環境の保全、野生動植物の保護管理による生物多様性の確保)

3 社会全体で取り組む魅力ある森林づくり

森に親しみ、協働で進める「森林との共生」

(1) 県民と協働で進める森林づくり

- ① 県民の理解の促進
(森林・林業に関する広報・情報発信、自然とのふれあいの推進)
- ② 県民との合意形成
(森林県民円卓会議の開催、県民意見の聴取、流域林業活性化センター取組支援)
- ③ 県民や企業の参加による森づくり
(県民参加の森づくり活動、アフターコロナの新たな活動の展開、企業の参加促進、地域住民等との協働による三保松原の松林の保全管理)
- ④ 森づくりの担い手の確保・育成
(森づくり団体の基盤強化、森林環境教育の推進)

(2) 新たな価値を活かした山村づくり

- ① 新たな山村価値を活かした交流拡大
(森林サービス産業、森林・山村資源を活用したワーケーションや移住の促進、林業従事者等の労働・定住環境整備、森林景観づくり)
- ② 特用林産物等の地域資源の活用
(しいたけ等特用林産物の生産振興と販路拡大、広葉樹等の未利用資源の活用)

4 「森林との共生」によるカーボンニュートラルの実現

(1) 森林吸収源の確保

- ① 吸収源となる健全な森林づくり
(間伐等の促進、吸収量を価値化する仕組みを活用した新たな取組による森林管理)
- ② 森林の若返りを図る主伐・再造林の促進
(低コスト一貫作業システム、エリートツリー苗木安定供給)

(2) 炭素貯蔵と排出削減に寄与する森林資源の循環利用の促進

- ① 貯蔵庫となる県産材利用の拡大
(都市部等における木造化・木質化の促進、県民や企業の木使いの促進)
- ② 排出削減に寄与するバイオマス利用への供給拡大
(林地残材等未利用資源の供給体制整備、循環サイクルを早めた「バイオマスの森」の造成・育成)